



～三河港湾事務所だより～

Mini-WANとは

港や海に関連する新鮮な話題を中心に、地元の皆さんとのつながりを大切にする広報誌です。

## Contents!



### 最近のトピックス

- ★衣浦の海の環境教室が開催されました
- ★御津臨海企業懇話会が開催されました
- ★愛知県港湾経済連合会総会が開催されました
- ★わくわく体験塾～三河湾の環境を学ぶ～が開催されました
- ★三河港振興会蒲郡地区防災部会の総会が開催されました



### 最近のトピックス

#### ★衣浦の海の環境教室が開催されました

8月3日、衣浦港で、高浜市の市民ボランティア「渡し場かもめ会」主催の「衣浦の海の環境教室」が開催されました。

この教室は高浜市内の児童とその保護者を対象として海の環境への理解と自然を守る意識の向上を目的に平成21年より毎年開催されています。

当事務所では、港湾事業を通じて三河湾の環境改善に取り組む一方、その効果の把握に努めています。また、このような環境学習を通じ、地域の方々に今後の事業と環境に対する理解を深めてもらうことを目的として協力しています。



乗船する児童達



水質調査に取り組む児童達

当日は、参加者27名が当事務所の港湾業務艇2隻に2班に分かれて乗船し、それぞれの船上で水質調査を行うとともに、採取した海水を持ち帰りCOD(化学的酸素要求量)を測定するなど、衣浦の海の現状について学習しました。水質調査を通して、衣浦港の海水の汚れ具合を知った児童達は「海にゴミを捨てないでほしい」「きれいな海になってほしい」など感想を述べていました。そして、きれいな海を守るために自分たちにできることは何かを一生懸命考えていました。

## ★御津臨海企業懇話会が開催されました

8月7日、豊川市御津生涯学習会館で御津臨海企業懇話会の第3回研修会が開催されました。研修会は、豊橋技術科学大学大学院(安全安心地域共創リサーチセンター長)の山田教授による「臨海部企業群の大規模地震対応能力の点検と改善」の講演がありました。

講演では安全安心地域共創リサーチセンターの概要説明、リスクマネジメントの概念、阪神大震災や東日本大震災の実例を用いた耐震設計や耐震性の評価の在り方、企業群BCPの説明や防災に関する新技術の紹介がされました。講演に引き続き、今後の防災対策の取り組みについての説明がありました。

その中で、先月行われた防災訓練参加事業所による意見発表があり、「大変有意義な訓練であった」「また訓練を実施してほしい」との意見がありました。今後の取り組みについては、御津地区全域での情報共有や危険箇所を示す地図の作成が発表され、会長からは全事業所の従業員で構成する作業チームの発足が提案されました。また、今秋から冬にかけて各地区の防災訓練、平成25年度には1・2区合同の防災訓練の実施を計画しているとの報告もありました。



研修会の様子

## ★愛知県港湾経済連合会総会が開催されました

8月3日、豊橋商工会議所で愛知県港湾経済連合会の定時総会が開催されました。港湾経済連合会は三河港・衣浦港・名古屋港・常滑港の4港に面した市町村の商工会議所、商工会、港湾振興会の18団体が構成しており、県内にある港湾のインフラ整備促進等を目的として活動しています。総会では今年度の事業計画や要望方針が承認されました。総会終了後、国土交通省港湾局 海岸・防災課 平井津波対策企画調整官(前三河港湾事務所長)が「我が国の港湾防災行政～切迫する大規模地震への備え～」と題して講演を行い、東日本大震災における港湾施設等の被害状況や港湾での防災・減災対策に加え、愛知県の港湾に対する期待と展望についても述べられました。



講演する平井津波対策企画調整官と聴衆される方々

## ★わくわく体験塾～三河湾の環境を学ぶ～が開催されました

7月31日、豊橋市青少年センター主催による「わくわく体験塾」が開催されました。体験塾は豊橋市の青少年育成事業の一環で、自分たちに身近な港である三河港を陸と海から見学して、みなとの役割についてより深く知ってもらう取り組みです。今回は「三河湾の環境について」というテーマで、豊橋市内の小学校4年生から6年生の児童とその保護者合わせて19名が参加されました。まず、当事務所の職員がスライドを使い三河湾の海域環境創造事業(シーブルー事業)について説明しました。すると参加者の方々は



熱心に耳を傾ける参加者の方々

メモとるなどして熱心に耳を傾けていました。

その後、当事務所の港湾業務艇「しおさい」に乗船し、海から三河港を見学しました。参加者の方々は航行する船舶や間近で見る自動車運搬船の大きさに驚いていました。また、防波堤や航路の役割や、シーブルー事業を実施した海域について説明をすると、「三河湾で干潟の造成を行っていることを知らなかった」との意見もありました。今回の体験を通し、三河湾の環境について理解を得ると同時に、興味を持ってもらえたと思います。



船内での様子

## ★三河港振興会蒲郡地区防災部会の総会が開催されました

7月11日、三河港振興会蒲郡地区委員会防災部会総会が開催されました。この部会は、防護ラインよりも海側に多くの企業が立地する蒲郡市浜町地区における、高潮や津波発生時等の連絡体制構築や、地域全体の防災体制の強化・連携を目的として今年の1月に設立されました。

総会では、蒲郡市の稲葉市長、防災部会長の竹本氏の挨拶に続き、顧問(豊橋技術科学大学安全・安心地域共創リサーチセンター長山田氏)、オブザーバー(当事務所他国・県の各機関)、参与(市関係部局)の紹介及び、平成24年度防災部会実施計画(案)が審議されました。

計画案では情報伝達や避難訓練等を秋に開催することや先進自治組織への訪問、連絡網の構築や防犯灯設置が提案され承認されました。

引続き、平成23年2月～3月と平成24年2月～3月の2回にわたって実施した防災に関するアンケートの結果が報告され、市役所の防災の取り組みや、実際に津波に対する対策をされている事業所の事例が紹介されました。

なお、報告されたアンケートの結果は下記のとおりです。

- ①回答事業所全体で約3500人が浜町地区で働き、そのうち約6割が市内に居住していること
- ②3500人のうち約9割の方が自家用車にて通勤していること
- ③ハザードマップや徒歩支援マップについて認識不足であること
- ④各事業所での備蓄品があまり確保されていないこと
- ⑤現在も多くの企業が防災マニュアルやBCPを作成中であること
- ⑥地区内の企業同士で災害時に関する協定を結んでいない

このようなアンケートの結果、災害時には「助け合い」が必要であり、対策についても課題が多いことが紹介されました。総会に続いて「三河湾地震・津波対策について」(当事務所宮田所長)、「三河湾に來襲する最大級の最大級台風による高潮・高波・暴風について」(愛知工科大学後藤学長)、「-11m岸壁の整備状況について」(三河港務所浅野所長)の3つテーマの講演があり、予定時間を過ぎても多くの方が熱心に講演を聞いていました。当事務所では、関係機関と連携しながら将来の大災害に備えるためハード対策を進めるとともに防災の取り組み等ソフト対策への支援も行っていきます。



熱心に耳を傾ける事業者の方々

9月1日は「防災の日」でした。1923年9月1日に発生した関東大震災にちなんで制定されました。9月は伊勢湾台風など大きな災害が発生した月であり台風の襲来が多い季節です。日頃から、避難経路の確認や防災グッズの用意など災害への備えを怠らないように意識しましょう。また、国土交通省では防災の情報を下記URLで提供しております。

<http://www.mlit.go.jp/saigai/bosaijoho/>

「海とみなとの相談窓口」全国共通フリーダイヤル

おーいに よくなれ みなと  
**0120-497-370**

受付時間※/9.00～12.00と13.00～17.00(土・日・祝祭日を除く)  
※一部の地域を除きます。



国土交通省中部地方整備局  
三河港湾事務所  
〒441-8075 愛知県豊橋市神野5-8-1番地1  
TEL(0532)32-3251 FAX(0532)32-5049

衣浦港事務所  
〒475-0631 愛知県半田市11号地2番地  
TEL(0569)21-2311 FAX(0569)21-2312

WEB <http://www.mikawa.pa.cbr.mlit.go.jp>  
E-mail [info-mikawa@pa.cbr.mlit.go.jp](mailto:info-mikawa@pa.cbr.mlit.go.jp)